

<熊本支部例会事前抄録>

日時：2023年3月28日（火）19時30分～

会場：添島歯科クリニック

-一般講演抄録 2-

バーティカルストップが減少した症例における第4の咬合様式
Functionally Discluded Occlusion.について

三村彰吾 共愛歯科医院 〒861-2231 熊本県上益城郡益城町安永722-4

■抄録

バーティカルストップが減少し、咬合再構成を必要とする症例にしばしば遭遇する。この際、バーティカルストップを獲得し、適切なアンテリアガイダンスを確立することが重要であるということは疑う余地はない。

しかし、実際に歯牙が欠損した空間にどの位置に歯を配列しどのような咬合を与えれば良いという具体的な指標はほとんど無い。基本的にはプロビジョナル・レストレーションを試行錯誤し決定するということである。

私は、約20年前に治療を開始した患者の口腔内にバーティカルストップを獲得し、適切なアンテリアガイダンスを確立していった。しかしプロビジョナル・レストレーションを試行錯誤する際、どのように行なったら良いかわからなかった。そのため最終補綴を製作する際、技工士の感覚と技術にほぼ頼ってしまった。

そのような時に、Functionally Discluded Occlusion (F.D.O.) という咬合理論を知った。私は目から鱗という感覚で感動を覚えた。

今回、最初に疑問に思った20年前の症例と、F.D.O.の症例を供覧していただき、皆様の意見を伺いたい。

尚、この発表に利益相反はない。